



TITLE:

宇治地区5研究所共通図書室紹介

AUTHOR(S):

CITATION:

宇治地区5研究所共通図書室紹介. 静脩 1972, 8(4): 6-6

ISSUE DATE:

1972-02

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36683>

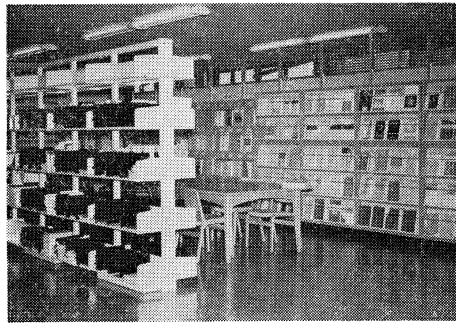
RIGHT:



宇治地区 5 研究所共通図書室

昭和39年に京都大学の方針により、工学、木材、化学、食糧科学、および防災の5研究所を宇治地区に集めて総合館を建設する計画が立てられたが、この計画は文部省の認めるところとなり、昭和40年度に工学研究所、昭和46年4月に原子エネルギー研究所と改称、昭和41年度に木材研究所、昭和43年度に化学研究所、昭和45年度に食糧研究所および防災研究所のそれぞれの建物が相次いで完成した。

総合館建設計画の当所から計画されていた共通図書室の建設も45年3月末に完成、45年6月にまず化研、工研図書室が合併してこれを使用した。同年9月に食研、11月に木研、46年4月に防災研が加わった。研究所の合併に伴い、各研究所図書室の所有雑誌のバックナンバー（3万2千冊）を共通書庫（全3層積層式、収容可能冊数5万）に収容し、その際部局別分類を廃止し、すべて一括してアルファベティカルに配架した。また新着雑誌は食研および防災研を除く3研究所のものを閲覧室（雑誌閲覧室一座席数13、参考図書室一座席数17）に配架した。このように1カ所に集められた雑誌は、部局の壁を越えて各研究所員共有の文献資料として自由に活用されている。本年4月1日から「宇治地区5研究所共通図書室閲覧貸出規則」が発行され、7月1日には5研究所「欧文雑誌総合目録」が刊行された。なお化研では、従来から図



書の受入、目録カードの作成を行なってきたが、5研究所合併後は他の研究所のそれらの業務も共通図書室で行なうようになり名実ともに宇治地区の中央図書室として体制が整った。この間に5研究所図書連絡委員会（各研究所の図書委員および事務長により構成）により共通図書室の基礎固めが行なわれ、現在まで図書内部設備の改良、各研究所間の重複購入外国雑誌の調整、共通複写室の設置—これにより宇治地区から2台のゼロックスを解約できた—、寄贈雑誌のための共通別置書庫の新設などが行なわれた。特に重複購入外国雑誌の調整によって点数にして21、金額125万円の削減（食研のC・A購入中止を含む）が可能となり、他の必要な外国雑誌の購入費に当てられた。共通図書室の当面の課題としては、外国雑誌購入について5研究所間の調整を行なうための一定のルール確立、現在化研のみで行なわれている新着雑誌のコンテンツ・シート・サービスを全研究所に拡大すること、現スタッフ12名（うち1名は原研、1名は木研所属）の所属統一による仕事の能率化などがあるが、要するに今後全員一体となり5研究所に対してきめの細かい、より充実した図書室サービスを行ないたいと考えている。

あとがき “BOOKS FOR ALL” この標語は、4頁で紹介しましたように国際図書年を機にユネスコで採択された標語です。「すべての人に本を」と呼びかけているこの標語の意味は大きいと思います。1970年代の世界の図書出版点数は50万、冊数で70～80億台といわれ、これはさらに上昇しています。このぼう大な出版産業も、たとえばアフリカに全くないという状態から、ユネスコは社会における図書の役割について世界世論の注意を喚起させようとしているわけです。ひるがえって、京大に目を向けるとき、大学の資料が「すべての人に」提供されているかとなると、疑問です。「すべての人が読む権利を持つ」ものであり、それを保障するところが図書館ではないでしょうか。始皇帝の焚書、戦争中の禁止本などの再来を防ぐために声を大きくして「すべての人に本を」と叫びたい気持です。（武内）

京都大学附属図書館報「静脩」Vol. 8, No. 4（通号43号）1972年2月29日発行・編集発行人：岩塚敏生 発行所：京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表771—8111（内線）2220—2238